



## 2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年10月31日

上場会社名 日本ガス株式会社(登記上の商号 日本瓦斯株式会社) 上場取引所 東  
 コード番号 8174 URL <http://www.nichigas.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 和田 眞治  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経財部(グループ財務)・コーポレートコミュニケーション部 管掌 (氏名) 清田 慎一 TEL 03-5308-2111  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年11月19日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	59,294	14.2	3,210	155.0	2,917	242.5	2,013	425.8
2019年3月期第2四半期	51,932	7.2	1,258	16.5	851	46.6	382	64.8

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 1,784百万円 (862.3%) 2019年3月期第2四半期 185百万円 (85.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	48.76	
2019年3月期第2四半期	8.97	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	132,673	66,990	50.5
2019年3月期	141,267	69,064	48.9

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 66,985百万円 2019年3月期 69,059百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		23.00		47.00	70.00
2020年3月期		35.00			
2020年3月期(予想)				35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	135,000		11,000		10,000		6,500		157.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - 以外の会計方針の変更 : 無
  - 会計上の見積りの変更 : 無
  - 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	41,773,466 株	2019年3月期	42,973,466 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	938,036 株	2019年3月期	1,498,332 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	41,293,928 株	2019年3月期2Q	42,711,443 株

(注)自己株式数については、役員報酬BIP信託が所有する当社株式(2020年3月期2Q:240,498株、2019年3月期:248,107株)を含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. その他	9
(1) 生産、受注及び販売の状況	9
(2) 需要家戸数等の推移	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

世界的に第四次産業革命といわれる中で、エネルギー業界はビッグデータ、IoT、AIという、ITを駆使したDX（デジタルトランスフォーメーション）のユースケースの山と言われています。ICTの破壊的進化を背景に経済のバーチャル化が進み、サブスクリプションやECなど新たなサービスの概念が多様化する日本の地域社会に次々と組み込まれ、事業競争の中心が単なる価格競争から利便性や受益者ストレスの解消に移行しています。また、ICTの進化は、規制の存在意義にまで影響を及ぼし、国家の規制によるコストのかかる監視から、ブロックチェーンや暗号化技術、自動認証システムなどに代表される、新たなイノベーションによる、コストのかからない、公正で改ざんのできないモニタリング体制に移行する過渡期とも言われています。エネルギーの自由化は、まさにこのことの試金石とも言われ、地域社会の発展と存立に欠かせないエネルギーが、公正な競争による新たなイノベーションの創出により、これまでの硬直的で画一的な商品ではなく、安価で、安全で、利便性が高く、受益者ストレスのないサービスとして提供されはじめています。

当社グループは、このような現状認識を踏まえ、知的無形資産であるシステム開発に投資のプライオリティをおいています。そのICTへの積極的な投資から生み出されたサービスの一つが、本年7月に製品化を発表したオンライン化されたガスメーター「スペース蛍」です。

スペース蛍は、電池交換を10年間不要としながら、これまで“人”により行われていたガス使用量の確認作業（検針）を、遠隔で、自動的に1時間に1回、リアルタイムに行うことを可能にします。また、緊急時の遠隔によるガス栓の遮断、ガスの微小漏洩警告等の保安情報もリアルタイム監視が可能になるなど、安全面からもお客様に利便性の向上を提供するサービスです。当社グループは、まず「スペース蛍」を当社グループのLPガスをお使いのお客様（約86万世帯）に導入し、次いで、当社グループの導管で都市ガスを供給しているお客様（約42万世帯）に導入する予定です。合わせて、一般のガス事業者の皆様にも、スペース蛍を、IoTを活用したデータサービスと統合する形で、サブスクリプションサービスにより提供を進めてまいります。

また、スペース蛍を、株式会社ソラコムと共同開発したビッグデータ収集基盤システム「ニチガスストリーム」と連携させ、様々な規格データを世界標準のフォーマットに統一し、さらにIT先進国エストニアの暗号化認証技術X-ROADやブロックチェーンを実装することにより、取得したデータを改ざんから守り、匿名性や整合性の担保を実現させます。このことは、協業、競合、異業にかかわらず連携可能なシェアリングエコノミーの統合基盤の確立につながり、当社と東京電力エナジーパートナー株式会社のJVである東京エナジーアライアンス社のプラットフォームに提供することによって、ガス自由化市場の活性化に貢献します。

2020年完成予定の世界最大級のハブ充填基地「夢の絆・川崎」においても、貯蔵タンクのガス残量・ボンベ在庫本数・ガス充填機の稼働状況をリアルタイムに把握する技術や、ガスボンベにRFIDを貼付し、ガスボンベの配送経路や位置情報をリアルタイムに把握する技術を構築しております。これらLPG物流におけるすべての拠点をリアルタイムに接続することで、「予測」に基づいてきたLPG物流の概念を、リアルタイムの「実績」に基づく姿に進化させ、「生産」と「消費」をリアルタイムで管理するLPGデジタルトランスフォーメーションを構築いたします。

当社グループは最先端テクノロジーへの取り組みこそが、今後の労働生産性向上によるトップラインの拡大、企業価値の持続的成長を決定づけるという確信のもと、ICT技術によるイノベーションの創出に取り組み続けております。当社グループのこうした取り組みが評価され、経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「攻めのIT経営銘柄2019」に4年連続で選ばれております。

一方で、ガス事業においては、選択と集中を進めました。主力事業であるLPガスにエネルギーを集中、この取組は、顧客純増数の増加という形で、その成果が表れ始めております。また、自由化後の都市ガス事業においては、自由化後の進捗を踏まえ、ビジネスドメインを再定義し、具体的な戦略を組み上げ、一層の成長に向けて邁進しております。

定量面に関しましては、当社グループの重要な経営指標でありますお客様数を、当第2四半期末に前年同期末に比べ139千世帯増の1,548千世帯と大きく増加させました。

当第2四半期連結累計期間の売上総利益につきましては、LPガス事業を最優先とした顧客獲得に加え、前年より寒い気候を背景としたガス販売量の増加、LPガス原料価格の低下によるマージンの良化、電気事業及びプラットフォーム事業の貢献等により28,290百万円（前年同期比12.0%増）となりました。

また、販管費を適切にコントロールし、営業利益は3,210百万円（前年同期比155.0%増）、経常利益は2,917百万円（同242.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,013百万円（同425.8%増）となり、大幅な増収増益となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の概況は次のとおりであります。

[LPガス事業]

今年度は営業の人的リソースをLPガス事業に最優先に配分した結果、お客様数を前年同期末に比べ31千件純増させ、ガス販売量が増加いたしました。また、LPガス原料価格も前期に比べ低く推移したためマージンが良化し、売上総利益は18,814百万円と前年同期に比べ2,050百万円（前年同期比12.2%増）増加しております。

[都市ガス事業]

都市ガス事業におきましては、自由化市場でお客様数を107千件純増させ、また前年より寒い気候を追い風にガス販売量を伸ばした一方、お客様への新規加入割引の中止をする等をした結果、売上総利益は9,475百万円と前年同期に比べ970百万円（前年同期比11.4%増）増加しております。

(2) 財政状態に関する説明

資本効率を重視している当社は、堅調な業績を背景に成長投資と株主還元を両立させながら、総資産及び自己資本比率をコントロールしております。

当第2四半期連結会計期間末の資産の部は、配当及び自己株取得、並びに借入の返済を行ったことにより現預金が減少、季節的要因により営業債権が減少したことにより8,594百万円（6.1%減）減少し、132,673百万円となりました。

また、負債の部は、借入の返済及び季節的要因によって営業債務が減少したことにより6,519百万円（9.0%減）減少し、65,683百万円となりました。

純資産の部は、親株主に帰属する四半期純利益の計上により2,013百万円増加いたしました。自己株式の取得及び配当の支払いにより2,074百万円（3.0%減）減少し、66,990百万円となりました。その結果、自己資本比率は50.5%となり概ね計画通りに安定した財務体質を維持しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の通期業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績等を勘案し、2019年4月25日に公表した通期業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日別途開示いたしました「第2四半期業績予想と実績の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,235	11,822
受取手形及び売掛金	7,647	6,732
商品及び製品	5,065	3,377
原材料及び貯蔵品	187	175
その他	1,158	1,243
貸倒引当金	△96	△94
流動資産合計	32,198	23,256
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,487	9,422
機械装置及び運搬具（純額）	33,061	32,194
工具、器具及び備品（純額）	946	956
土地	32,194	32,871
リース資産（純額）	1,959	2,076
建設仮勘定	1,044	1,176
有形固定資産合計	78,694	78,699
無形固定資産		
のれん	2,336	2,311
その他	3,761	4,293
無形固定資産合計	6,098	6,605
投資その他の資産		
投資有価証券	3,628	2,980
その他	21,703	22,703
貸倒引当金	△1,054	△1,571
投資その他の資産合計	24,276	24,112
固定資産合計	109,069	109,417
資産合計	141,267	132,673

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,286	4,822
電子記録債務	4,062	3,107
短期借入金	21,686	19,046
未払法人税等	2,916	1,298
賞与引当金	397	404
その他	5,737	5,529
流動負債合計	42,086	34,207
固定負債		
長期借入金	23,418	24,563
株式報酬引当金	477	523
ガスホルダー修繕引当金	354	387
製品自主回収関連損失引当金	60	43
退職給付に係る負債	2,665	2,749
その他	3,140	3,207
固定負債合計	30,116	31,475
負債合計	72,203	65,683
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,070	7,070
資本剰余金	7,920	5,860
利益剰余金	58,971	56,728
自己株式	△5,474	△3,016
株主資本合計	68,487	66,642
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	346	53
為替換算調整勘定	286	339
退職給付に係る調整累計額	△61	△49
その他の包括利益累計額合計	571	343
非支配株主持分	5	4
純資産合計	69,064	66,990
負債純資産合計	141,267	132,673

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	51,932	59,294
売上原価	26,663	31,004
売上総利益	25,268	28,290
販売費及び一般管理費	24,009	25,080
営業利益	1,258	3,210
営業外収益		
受取利息	201	221
受取配当金	30	27
為替差益	81	-
不動産賃貸料	35	34
受取保険金	35	19
保険配当金	19	18
その他	140	143
営業外収益合計	543	465
営業外費用		
支払利息	159	152
持分法による投資損失	618	1
為替差損	-	80
貸倒引当金繰入額	135	515
その他	37	7
営業外費用合計	950	758
経常利益	851	2,917
特別利益		
固定資産売却益	58	4
投資有価証券売却益	165	67
抱合せ株式消滅差益	-	52
その他	0	-
特別利益合計	224	124
特別損失		
固定資産売却損	0	6
固定資産除却損	40	50
投資有価証券売却損	-	15
その他	8	-
特別損失合計	48	72
税金等調整前四半期純利益	1,027	2,970
法人税、住民税及び事業税	644	1,300
法人税等調整額	1	△342
法人税等合計	646	957
四半期純利益	381	2,012
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	382	2,013

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	381	2,012
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△177	△292
退職給付に係る調整額	4	11
持分法適用会社に対する持分相当額	△22	53
その他の包括利益合計	△195	△227
四半期包括利益	185	1,784
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	187	1,785
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

①自己株式の取得

当社は、2019年4月25日に開催した取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、取得株式の総数1,650,000株、取得価額の総額5,000百万円を上限として2019年5月1日～2020年4月30日の期間で東京証券取引所における市場買付けにより自己株式の取得を進めております。

これにより、当第2四半期連結累計期間において自己株式を650,813株取得し、1,936百万円増加いたしました。この結果、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が3,016百万円となりました。

②自己株式の消却

当社は、2019年4月25日に開催した取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、2019年5月21日付で、自己株式1,200,000株の消却を実施いたしました。これにより、資本剰余金、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ2,060百万円、2,294百万円、4,354百万円減少しております。

## 3. その他

## (1) 生産、受注及び販売の状況

当社グループは販売を主として行っており、報告セグメントごとに生産規模及び受注実績を金額あるいは数量で示すことは行っておりません。当社グループの売上高及び利益面におきましては、性質上季節的変動が著しいガス事業の占めるウェイトが高いために、下期に偏る傾向にあります。

## 1) 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績を報告セグメント別に示すと、次のとおりであります。

## 報告セグメント別販売実績

報告セグメント	前第2四半期連結累計期間 (2018.4.1～2018.9.30)	当第2四半期連結累計期間 (2019.4.1～2019.9.30)
LPガス事業(百万円)	29,163	32,628
都市ガス事業(百万円)	22,769	26,665
合計(百万円)	51,932	59,294

## 2) LPガス事業の販売実績

区分	前第2四半期連結累計期間 (2018.4.1～2018.9.30)	当第2四半期連結累計期間 (2019.4.1～2019.9.30)
ガス(百万円)	24,816	25,636
機器、受注工事他(百万円)	4,346	6,992
合計(百万円)	29,163	32,628

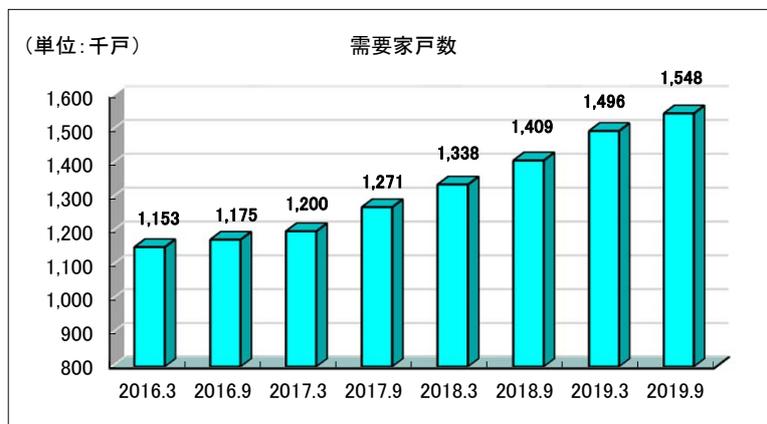
## 3) 都市ガス事業の販売実績

区分	前第2四半期連結累計期間 (2018.4.1～2018.9.30)	当第2四半期連結累計期間 (2019.4.1～2019.9.30)
ガス(百万円)	19,050	23,145
機器、受注工事他(百万円)	3,718	3,520
合計(百万円)	22,769	26,665

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. セグメント間の取引高は相殺消去しております。

(2) 需要家戸数等の推移



(注) ガス販売量には、都市ガス事業における都市ガス(LNG)販売量をLPG販売量(千トン)にカロリー換算して含めております。